

ブロック名：総合診療(ブロック②)

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
4.9	火	I	西洋医学と漢方医学	松田 隆秀	総合診療内科	1. 西洋医学の特徴 2. 漢方医学の特徴	学生の為の漢方医学テキスト
"	"	II	漢方医学の歴史	"	"	1. 我が国の伝統医学としての漢方	"
"	"	III	漢方薬とは	和智 明彦	多摩南部地域病院	1. 漢方の魅力 2. 西洋医学に漢方医学を融合することの意義	"
4.10	水	I	内科領域の漢方治療の実態①	新井 信	東海大学	1. 漢方治療の適応と不適応を説明できる。 2. 全身倦怠感に用いる漢方薬を述べる事ができる。 3. 頭痛に用いる漢方薬を述べる事ができる。 4. めまいと浮腫に用いる漢方薬を述べる事ができる。	"
"	"	II	内科領域の漢方治療の実態②	"	"	1. 感冒に対する漢方の考え方を説明できる。 2. 急性期の感冒に用いる漢方薬を述べる事ができる。 3. 亜急性期および遷延期の感冒に用いる漢方薬を述べる事ができる。 4. 気管支喘息に用いる漢方薬を述べる事ができる。	"
"	"	III	内科領域の漢方治療の実態③	"	"	1. 消化器症状に対する漢方治療の意義を説明できる。 2. 機能性ディスぺプシアに用いる漢方薬を述べる事ができる。 3. 便秘異常に用いる漢方薬を述べる事ができる。 4. 消化器領域における漢方治療のエビデンスを概説できる。	"
4.11	木	I	外科領域の漢方治療の実態	島 秀樹	小児外科	1. 外科領域で使用する漢方薬の特徴を理解する。 2. 上部消化管、下部消化管術後に使用する漢方治療を概説できる。 3. 外科領域で使用頻度の高い大建中湯の特徴を理解する。 4. 悪性腫瘍術後の漢方治療を概説できる。 5. 整形外科領域で使用する漢方治療を理解する。	"
"	"	II	加齢と漢方	萩庭 一元(非)	総合診療内科	1. 幼児期から老人まで、加齢に伴う漢方処方の違いを理解する。 2. 発達障害に対する漢方薬を挙げる事ができる。 3. 思春期、更年期、高齢者で頻用する漢方薬の説明ができる。 4. 高齢化社会での認知症に対する漢方治療の可能性を理解する。 5. 癌に対する漢方治療の役割を理解する。	"
"	"	III	産婦人科領域の漢方医療：更年期、冷え、妊娠	"	"	1. 女性特有の病態と漢方治療の適応を説明できる。 2. 更年期障害への漢方治療を説明できる。 3. 冷えに対する漢方治療を説明できる。 4. 妊娠中の漢方治療の問題点を概説できる。 5. 症例を通じて具体的な処方内容を概説できる。	"
4.12	金	I	小児科、皮膚科領域の漢方医療の実態	齋藤 陽(非)	小児科学	1. 小児の漢方治療の特徴を理解する。 2. 漢方の適応する疾患と適応になり難い疾患を理解する。 3. 皮膚疾患に対する漢方治療、標治と本治を知る。 4. 湿疹・アトピー性皮膚炎・蕁麻疹などの基本処方を知る。 5. 証にこだわらずに出せる処方を知る。	"
"	"	II	漢方理論	村中 将洋(非)	総合診療内科	1. 漢方の四診とは何か、西洋医学との違いを述べる。 2. 証とは何かを理解する。 3. 陰陽・虚実・悪寒・表裏を理解する。 4. 気血水の概念とその異常を理解する。 5. 六病位の概念と治療原則を理解する。	"
"	"	III	生薬概論、服用方法、副作用	崎山 武志(客)	総合診療内科	1. 民間薬と漢方薬の違いを理解する。 2. 漢方薬の剤型を知る。 3. 桂枝湯を中心にその展開と処方の豹変を知る。 4. 漢方薬の副作用を述べる事ができる。 5. 煎じとエキス剤の違いを体感する。	"